

♪ 2024年度

poco a poco

♪

Nr. 17 2025年1月9日(木) 文責: プファイル・辰巳

謹賀新年 今年もよろしくお祈りします!

3学期の始まりです!みなさん、元気に2025年の元旦をお迎えになったでしょうか。短い3学期ですが、大切な締めくくりの学期です。卒業式・修了式まで1日1日を大切に過ごしましょう!



音楽こぼれ話 <音を出さない音楽家 ~ 指揮者>

冬休みに2冊の本を読みました。どちらも有名な日本の指揮者に関する本です。小澤征爾氏と佐渡裕氏。お二人とも世界的にも知名度の高い指揮者です。

残念ながら小澤征爾氏は昨年2月6日、88歳でその生涯を閉じられました。佐渡裕氏は1961年生まれの現役。日本でもヨーロッパでも大活躍中です。お二人の指揮者に共通していることは、フランスのブザンソン国際指揮者コンクールにて入賞経験があることです。

小澤氏がスクーターとギターを船に持ち込み、何か月もかけてフランスへと単身で向かい、1959年にブザンソンでいきなり1位に入賞されたお話は有名です。その後、渡米し指揮者のバーンスタインに師事、29年に渡ってボストン交響楽団を指揮し、1984年にはサイトウ・キネン・オーケストラを立ち上げました。その後も、2002年には日本人初となるウィーン・ニューイヤーカーコンサートでの指揮、ウィーン国立歌劇場の音楽監督就任など、「世界のオザワ」として名を轟かせました。2010年に食道癌で食道を全摘した後も、病と闘いながら、昨年亡くなるまで活動を続けておられました。



佐渡裕氏の方は、30年ほど後の1987年にまず渡米、タングルウッド音楽祭に参加しました。ここで小澤征爾氏・バーンスタイン氏と知り合い、勧められるままにヨーロッパに渡り、1989年、ブザンソンで優勝しました。その後フランスのコンサール・ラムルー管弦楽団を20年近く指揮しました。1999年からは日本の「サントリー1万人の第9」の2代目指揮者を務め、2008年から2015年までは、「題名のない音楽会」の5代目司会者も務めました。現在はウィーン・トーンクンストラ管弦楽団の首席指揮者であり、兵庫県芸術文化センターの芸術監督でもあります。



小澤氏に関する本は「小澤征爾 指揮者を語る」(PHP 100年インタビュー制作班:編)という書名。佐渡氏の方は「棒を振る人生~指揮者は時間を彫刻する」(PHP文庫)で、どちらも日本人学校の図書室に新刊として購入していただきました。両氏の音楽観が随所で語られ、オーケストラやクラシック音楽について、さらには人としての生き方についても考えさせられる本です。

特に私の心に残った言葉は、佐渡氏の「人によって価値観は違い、生き方も異なるが、共に生き、それを喜びとすることが人としての本質的なものであり、音楽をすることを通して、その本質的な喜びを体感することができる。」という部分です。ひとりで音楽をするのも楽しいですが、「それぞれが自分らしい音を出しながら、人の音に耳を傾けることで美しい響きが生まれる。」というのです。音楽をすることは、大きな喜びであることを改めて感じました。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

1月26日(日) アルテオーパー・大ホールにて
19時から ブダペスト・フェスティバル・オーケストラの演奏
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲ホ短調
マーラー :交響曲第5番嬰ハ短調

3学期ミニコンサート(小1から4年生の部)は、2月27日(木)の午前中を予定しています。詳細は後日お知らせします。